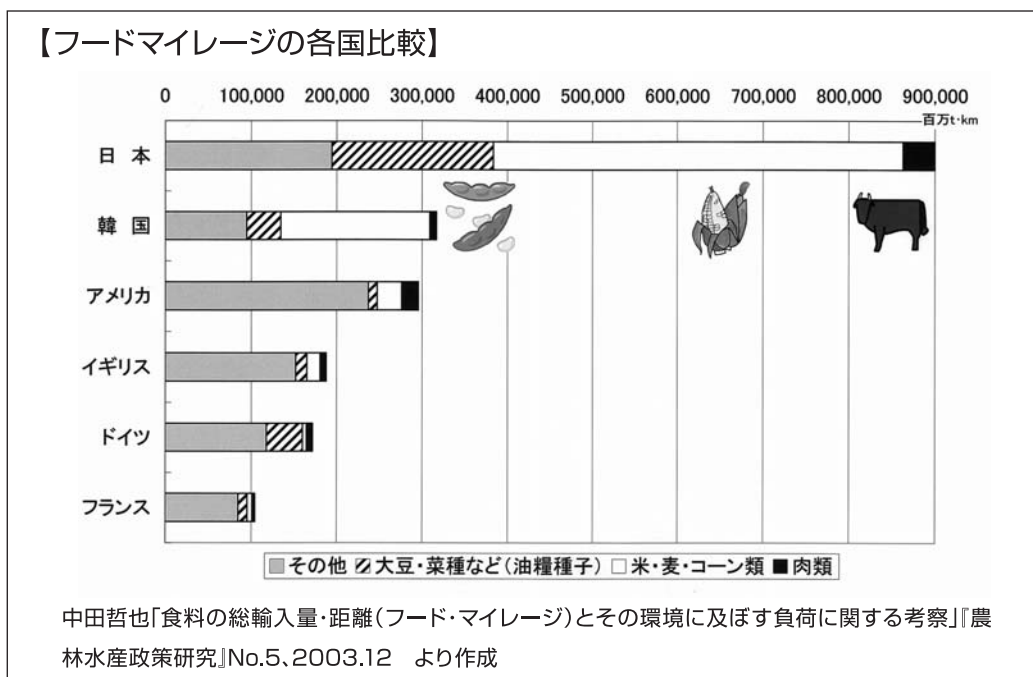


【日本はフードマイレージが世界で一番高い国です】



フードマイレージが世界で一番高いということは、食料自給率の不足を補うためにたくさんの食料を外国から輸入しているということです。また同時に、輸送のために大量のエネルギーを消費して地球温暖化物質である二酸化炭素(CO₂)や大気汚染物質である窒素酸化物(NO_x)を発生させ、地球に大きな負荷を与えていることを意味します。

日本のフードマイレージの中で、特に大きな数値を占めている品目に穀物と油糧種子があります。穀物の中には、パン等の材料となる小麦や、家畜(牛や豚)の餌になるトウモロコシ等が含まれます。油糧種子とは、油の原料となる大豆・菜種・綿実等のことです。

現代の日本人の食生活に深く浸透しているインスタントラーメン、菓子パン、加工食品の製造には、小麦や油が欠かせません。また、肉の生産を増やすためには、たくさんの家畜を飼育し餌を与える必要があります。わたしたちの毎日の食事の在り様がフードマイレージを世界一の数字に押し上げています。わたしたちの食の嗜好や選択は地球環境問題につながっているのです。

⇒「あなたが昨日食べた食事をすべて書き出してみよう。

その中に、インスタント食品・菓子パン・加工食品・肉類はどのくらいありますか。」

〔用語解説〕

◆**フードマイレージ**／食料の生産地から食卓までの距離に着目し、なるべく近くで取れた食材を食べた方が、輸送に伴う環境汚染が少なくなるという考え方です。食料輸用量と輸送距離を用いて、食料輸送の負荷を数値化して表わしています。イギリスの消費者運動家ティム・ラング氏が提唱した考え方が元になっています。